

第4回 阿智村学校のあり方検討委員会 会議録

○ 会議日時 令和6年12月3日（火）午後4時

○ 会議場所 コミュニティ館 2階 ホール

○ 出席者 委員長：岡庭 潤 副委員長：伏木 久始（リモートでの出席）
代田 昭久
委員：熊谷 和洋 増田亜由美 熊谷 節子 井原 毅
近藤 忠雄 熊谷 直哉 上條 雪絵 関 雅夫
原 耕 小笠原和司 白澤 裕次 逸見 貴子
井原穂奈美 佐々木哲志 櫻井 朱
（欠席 田島 佳世 委員 熊谷 安倫 委員）

【教育委員会 事務局】

教育長：黒柳 紀春 教育次長：川上 悟 学校教育係：村田 浩一
学校教育専門主事：松澤 徹(全体進行) 川上 清宏 佐々木 豊
英語教育専門員：両角 明浩

1 開会の言葉（川上次長） 午後3時59分

皆さん、こんにちは。ただ今より第4回阿智村学校のあり方検討委員会を始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

2 教育長あいさつ

皆さん、こんにちは。

さて、早いもので令和6年も残すところ1か月を切ったということになりました。4月に学校のあり方検討委員会がスタートしてから9カ月になるわけですが、委員の皆さんには大変お世話になりました。

本年の活動を少し振り返ってみますと、本委員会が本日を入れて4回、小委員会が2回開催されました。

委員会の審議以外にも、3月と4月に阿智村中学生アンケートを実施。5月18日には東京学芸大学の高橋純先生による「新しい学校のあり方」オンライン講演会を、6月29日には阿智村の教育を考える全村フォーラムを開催しました。フォーラムではあり方検討委員を含め76名の皆さんに参加いただきました。

8月23日には、中間まとめに向けて、子育て世代の保護者の皆さんの声をお聞きする阿智村学校のあり方PTA（保護者会）懇談会を開催し、15名の保護者の参加をいただきました。同じく8月から9月にかけてQRコードによる幅広い村民の皆さんの声

をお聞きするアンケートを実施。60名の皆さんから真摯なご意見をいただきました。また、10月28日には北信の信濃小中学校視察に村長と学校のあり方検討委員を中心に34名の皆さんに参加していただきました。

9カ月足らずの間に随分といろいろな会議や企画をこなしてきたものだと思います。委員の皆さんには改めて御礼申し上げます。

本年度は、あと1月10日と2月20日に本委員会を開催する予定になっております。「中間まとめ」の作成に向けた活発な審議をお願いしたいと存じます。

さて、本日の会議でございますが、「中間まとめ」の作成に向けて、先ず、視察を行った信濃小中学校の報告を事務局よりさせていただきます、委員の皆さんに意見交換をしていただきます。

次に、諮問1の中間まとめに向けて、白澤委員より原案を説明していただき、グループ協議を経て同じく意見交換をしていただきます。

3点目として、諮問3について、前回の委員会におけるご意見を受けて事務局で手直しをした改訂案を用意しましたので、それについてもご意見をいただきたいと存じます。

前回の委員会でも申し上げましたが、「中間まとめ」はこれまで積み重ねてきた委員会の議論や全村フォーラムにおける議論、8月のPTA懇談会やQRコードを用いた村民の声等をベースに作成されてきているものでございます。来年度の完成形としての答申ではなく、現時点における検討委員会の「阿智村のこれからの教育のあり方」について方向性をまとめていただけるものと教育委員会事務局では承知しております。本日もよろしくお願いいたします。

3 委員長あいさつ

改めまして、こんにちは。

大変お疲れの中、またお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。今、教育長からもお話がありましたとおり、信濃町の義務教育学校の視察では本当に多くの皆様が参加いただいて、大変有意義だったと思います。またご参加されなかった委員の方々につきましても、今日の報告を受けていただき、議論していただければと思います。校舎も大きかったのですけれども、いろいろなものが大きな作りでございました。12月に入りまして、新聞紙上でもいろいろ少子化に対応する各自治体、それから小中学校の動きが報じられております。教師のなり手不足とか、少子化に対応する学校の工夫ですとか、いろいろな記事が載っております。そんな中で、また阿智村独自として議論を深めていけるということは、本当に有意義なことだと承知しておりますので、ぜひ今日も、大変短い時間ではありますが、いろいろな方々のご意見を集約していただいて、議論を前に進めていただければと思います。今日は小グループの討論、話し合いもありますので、しっかりと皆さん話し合いをいただければと思います。本日はよろしくお願いいたします。

松澤専門主事

それでは、協議に入ります。協議につきましては、委員長さんの進行でお願いします。

4 協議

①委員長

まず初めに、10月28日の信濃小中学校への視察報告をいただき、諮問の2に関わる意見交換をさせていただきたいと思います。事務局、お願いします。

(1) 信濃小中学校視察報告（松澤専門主事）

それでは、信濃小中学校の視察報告をします。

10月28日の月曜日に、信濃小中学校へ参りました。あり方検討委員の方13名、教育文化協議会、教育委員、村会議員、自治会長や学校PTAの代表、保育園の保護者、教育委員会の事務局で行ってまいりました。

概要ですけれども、信濃町は阿智村と規模的に同じような人数のところで、5つの小学校を統合したという経緯がございます。地図に落とし込んでありますが、広範囲にわたって小学校が5つあったわけです。新たにできた信濃小中学校は、建物・校舎ですけれども、建設に関わる資料が概要の4・5ページのところにあり、その特徴として7つございました。

- ① 施設一体型の小中一貫教育校（長野県初の義務教育学校）
- ② 校長1名、副校長1名、教頭1名
- ③ 5年生からの教科担任制（一部教科は3年生から）
- ④ 初等部30人以下学級（1年生から4年生）
- ⑤ 学習支援によるTT指導（1・2年生は各学級、3・4年生は各学年に配置）
- ⑥ 不適応アシストルームと個別学習指導リリースルーム設置
- ⑦ 全学年が利用できるLD等通級指導教室の設置

6ページのところに、参加された皆さんと教育委員会、学校の方の質問等の記録があります。大きく6つのことを質問し、それぞれに回答をいただきました。人口減少のこと、校舎の開放等、統合を進めるにあたって地域との対話の中で意見をまとめる難しさがありましたかということも質問を出されました。教育内容では、総合的な学習や特設教科の時間を使って地域で学ぶことをしているようです。小中一貫校となったことの成果として、中学3年生にあたる9年生に、小さい子が憧れを持ち、逆に上級生は下級生を思いやる、そういう優しい姿が見られることもありました。最後ですが、学校がなくなると地域が疲弊するという風に言われていますが、どうだったのですか。そんなことも参加者の方から質問がありました。地域の方と触れ合う場を持つということを進め、1番小さな学校だった古海小学校の地域では、移住者が増えて逆に人口が増えてきていることもお聞きすることができました。7ページ、8ページのところは施設の写真等を撮らせていただいたものをいくつか載せてあります。参考として、9ペー

ジ以降は学校要覧から特徴的なところを載せています。今後の参考になるかと思いません。13 ページ以降は参加していただいた方のアンケートを集めさせていただきました。子どもたちにいろいろな配慮がされているということ、総合的な学習と合わせて地域の方と話を進めていくことも必要であることなど、いろいろな配慮、支援がされています。また委員の皆さんからもご意見をいただきたいと思えます。

①委員長

信濃小中学校は、副委員長の伏木先生のお考えを反映させたと言っても過言ではない学校です。今日は伏木先生にオンラインでご参加いただいているのですが、付け加えていただくことがありましたら先生にお願いしたいと思えます。いかがでしょうか。

②伏木副委員長

今日は2時から大学院の事前審査があり、会議に間に合わないでオンラインで参加させていただきました。信濃小中への視察、お疲れ様でした。参加者からのアンケートのまとめを13 ページから見えていたのですが、もう少し説明が必要だと思える点があるからお話ししたいと思えます。

まず1点目は、状況が違うかもしれないので、事務局の方で計算をしていただかないといけないことなのですが、信濃小中の場合は5つの小学校と1つの中学校をそのまま存続した形でやっています。耐震構造からか、体育館や校舎などのメンテナンスに莫大な費用がかかります。子どもの数はこの25年間で半分以下に減ったので、将来的に町の財政が成り立たないということもあり、町長が統合を決意したという背景があります。感想の中に、新しい学校を作るのにお金がかかるというご意見が保護者から出ていますが、そのまま残すのもお金がかかるので、その比較を計算した方がいいかなという気がします。

2点目は、当日もあつたかもしれませんが、9年間を一まとめにすると、最高学年といわれる6年生の経験が薄くなって困るのではないかという意見が、信濃町の小中学校を立ち上げる時の先生たちからたくさん出ました。従来の価値観や固定観念を持たずにつくり上げていこうということで始まったのですが、その数年後、初めての9年生が誕生しました。6年生という最高学年を経験しない子たちが9年生になったのですが、当時の校長先生や職員が全員もれなく「最高・最強の9年生」という風に言ったのです。6年という最高学年を経験しないと貧弱な子になるとか、何か大事な経験をしなくなる、それは、それまでのシステムに慣れた大人たちの固定観念だったな、ということも私たちが反省しながら思ったことが2つ目です。

3つ目ですが、地理的なものと交通機関的なものの違いを、もっと詳しく調べないといけないのですが、信濃町の場合は、町のバス通学や、オンデマンド、方面を分けて検討し、場合によってはバス会社にバス停の位置を変えてもらうなどして通学を確保したのですが。阿智村が同じようなことができるのかどうかということと、今はこのオンラ

インが日常のツールになり始めているので、時代状況は違うけれども、スクーリング等で集まるときに既存のバスルートが使えるのか、運転手の手配はできるのか、走らせることが可能なのかどうかということでも、この問題は全く違うものになるだろうなという風に思いました。これが気になった点の3点目です。

③委員長

はい、ありがとうございます。今、伏木先生から 補足と言いますかご指摘いただきましたけれども、参加されていない方、参加された方の中からもご発言ありましたら話してください。

④A委員

私は参加してないのですが、根羽村にも根羽学園というものがありますけれど、根羽学園は義務教育学校だったら、近いところも視察するのもいいのではないかと思います。

⑤委員長

ただ、これはこれで報告ということで、また皆さんの中で紹介していただければと思います。よろしくお願いします。

⑥松澤専門主事

ありがとうございます。諮問の2の中間まとめにも活かしてほしいと思います。それから、前もって広報でお知らせをして、必要な方には教育委員会まで取りに来ていただいていたいただきたいと思っておりますので、ご承知おきください。ありがとうございます。

(2) 諮問1 中間まとめ原案検討・提案と説明

①委員長

ありがとうございます。それでは、諮問1の方にいきたいと思います。中間まとめの原案ですが、これから検討していきたいと思います。事前に資料の方は目を通していただいていると思いますので、今後の学校と地域の関係性についてお願いしたいと思います。まず白澤委員の方からお話いただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

②白澤委員

皆さん、こんにちは。

とりあえず取りまとめをさせていただきましたので、10分ぐらいで説明します。

簡単に学校と地域の関係性について言うと、その関係性においては人口減少の問題と

というのはわかるのですが、国や県が発表したもので、そういった資料を基に今後の関係性の基盤になるというか、数値を少しお話させていただきます。

50年前に温泉が出湯し、村の産業形態を大きく変更してきました。今後も阿智村は観光を1つの基幹産業として発展していくために、ここ数十年いろいろな取り組みをしてきて、ある程度の価値が見出されていたという風に考えております。ただ、少子高齢化の問題、人口減少の問題は避けることはできませんので、こういったことも地域のまちづくりと含めてトータル的に考えていかなくていけないのではないかとこのことを冒頭で申し上げています。人口動態だとか諸々のその推測の数値があるのですけれども、最初はその50年の推計で物事を考えたら、推計にならなかったわけで、さすがに50年後を見据えるとこの人口動態の問題とか出生率の問題について我々が議論できるところではないので、数値からすると存続できてない、50年後は存続できてないというような数字になってしまいます。今回の数字は25年後、我々が推測できる25年後ぐらいのところで数値を出しており、1番の25年後の人口動態の予測についてはこの資料の通りでございます、2050年には3,580名が村の人口だと言われております。0歳から14歳の子どもさんですか、これが2050年だと367名ということで、2024年の数値から見ても見えてきますと、かなりの減少が見込めたということです。ニュースとか報道等で、人口減少の問題は皆さんご存じの通りだと思いますけれども、実際に置き換えるとかなりの数値になります。2070年の数値でいけば人口は1,100人でございます。

続きまして出生数の現状ですけれども、これもこの会議の1番最初の頃に言われた通り、令和4年から20人台ということになって大変な出生率になっているということです。人口減少が予想以上に進む可能性も当然考慮しなければいけませんので、今我々ができるのは、この20数名の数値で試算をしていくしかないのですが、劇的に増えることは国も県も予想していませんし、少なくなる数をどのくらいにするかというところだけが議論の中心になっていますので、我々もその中で試算をしています。この資料は出生率の推移についてご説明をしています。

それから、先ほどもあった通り財政の問題でございます。

まず、これも先ほどお話があった校舎の老朽化という問題。先般の諸々のその協議の中で、50年程度が学校施設の耐用年数という風に言われているところから考えますと、この表にある通り、第一小学校、第二小学校、清内路小学校については、対応年数がいわゆる安心、安全で子どもたちが過ごせる学校ではなくなるというような数字です。それから第三小学校、浪合小学校についても、この15年で耐震の年数を超過します。非常に老朽化が進んでいるということになります。

それから、学校の施設負担からの財政予測では、これは直近のその決算を参考にして試算をしておりますけれども、皆さんご存じの通り、現況のままどういう風に修繕をしていくか、それによってコストも下がるというけれども、人件費も当然上がってまいりますし、資材物価の高騰は今後もかなり予測可能でございますので、現状、2024年の数値から、2050年の数値を見ていただくと、年間5億円を超える予想ということです。

これは建て替えまで踏み込まないと本来はいけませんけども、耐用年数を超過したものをそのまま修繕して、安全、安心が守られるかというのは難しいところでございます。少なくとも年間5億円を超える経費は、今のまま5億で収まるのかどうかというのは未知数でございます。

村民一人当たりの教育に関わる負担額というものも、これも決算の数値から負担額を予想しております。2024年、2050年の数値を見ていただくと2倍を超えます。2024年が村民一人当たり大体6万3,000円ぐらい、2050年の数字で見ますと14万から15万ぐらいの負担が見込まれるということになりますので、現在の2倍ぐらいの負担が出てまいります。ということで、人口動態やいろいろな数値を基に資料を作ったわけです。

教育に関わる今後の財政見通しは非常に厳しくなりますし、ここに資料には載せられませんけども、村の人口減少による地方財政の問題や村の予算について別枠ではよく調べてありますけども、現在のその村の予算から10億レベル、20億近い財政の不足が予想されますので、今後地域経済の影響が非常に避けられない状況だなというところがあります。

こういった資源的な数値のものからですね、今後の関係性を構築する部分ということになりますけども、(4)の学校と地域の新しい関係を構築するというところがございますけども、スクールコミュニティの発想が欠かせないという風に考えております。単なる遊びや学びでもなく、地域全体で子どもを支援し、各世代が共に学びあう学びの共同体を定義するものです。学校が地域のコミュニティの中心となるという考え方ですから、5番、地域の特殊化した阿智村スクールコミュニティ構想ということですが、行政や産業、学校だけではなく、様々な産業と協力していくことが重要だという風に考えます。医療、福祉、看護、農業といった村の施設を有効に活用していく必要があるのではないかと考えます。これにはリニア新時代構想の町づくりというものも昨年発表させていただいて、どういった役割を果たすかというところにも連携をさせています。阿智村スクールコミュニティ構想というのは、自分の歴史と特色を生かしたものであり、地域における持続可能性を見出す日本のモデルケースとして取り組むということがこの村にとっても重要なところではないかなという風に思います。

最後ですけれども、学校区や阿智村コミュニティの中で学校というのはそもそも存在しているわけですが、従来のその地域という概念、それから発想を変えて取り組んでいく必要があると思います。地理的歴史的に繋がった学校という捉え方をし、これからはその教育活動や学習交流による新しい繋がりや広がりを考えていく必要があるのではないかと思います。学校の撤廃だとか、誰もが望んで自分の行きたい学校に行く、単純に言えばそういうことになります。ここまで状況、数値が進捗をしていきますと、学校のコミュニティのあり方も大幅に転換していく必要があるのではないかなと。いいか悪いかは別ですけども、新しい時代になってオンライン学習やデジタル技術がこんなに発展をしてきて、随分世界も変わりました。20年前にこんなことを想像してした人は多分ここには誰もいないと思いますけれども、10年で技術であったりイノベー

ションは非常に進歩をして、従来のあり方と変わっていくものが非常に出てきて、となるとですね、こういったその技術であったりオンラインを使うことに変わっていけるのではないかなど。ですけれども、諮問の原案を作らなければならないということで、うちの従業員や近隣の親御さんとかといろいろ話をした中で非常に印象深かったのが、確かに少人数でやるものはずっと世界が変わらないので安心であったりとか、非常にゆったりとしたペースで生きていくことはできるけれども、将来のことを考えると、子どもたち自身も多くの人と一緒に学んでコミュニケーションを取っていきたいと言っていました。子どもを持つ従業員や子どもさんに話を聞いても、人数が少ない学校で学ぶことももちろんすごく大事だし大切なのですが、できるだけ早く多くの人たちとコミュニケーションを取れる環境の中で、自分の才能や将来を決めていくきっかけを掴みたいなどという意見もあったということ、最後に申し添えておきます。

③委員長

ありがとうございました。今の発表を受けまして、それぞれでお考えになることがあろうかと思しますので、これからお近くの4～5人のグループになっていただいて意見交換をしていただきたいと思っております。その前に白澤委員にご質問のある方はいらっしゃいますか。

④B委員

この最後の(6)は、これは阿智村だけじゃないと、このことを指しているのか、それとも、これだけネットワークが発達してきたことで、ある程度もとの関係を作っていくのか。この辺はどういう風に理解したらいいでしょう。

⑤白澤委員

今回については、見出しをまず中心に考えて、今回、日本国であったりその県であったり、村の数字でこの村を推計しているのですが、お隣の例えば飯田市もそうですし、この南信州の14市町村の人口動態を推定しても、長野県の中でもこの南信州エリアが1番人口減少の激しいエリアになると。町村はもちろんです、他の市町村も含めて今後の動向に予断を許さないという数字が出ていますので、その辺を含めて阿智村で今後、こういう検討をしていく中で、村の学校教育がどうかというところを考えていくということです。

⑥B委員

ありがとうございました。

⑦C委員

そもそも、この諮問の初めなのですが、一応基本は今の時代を見据えた学校との関係

性についてなんですけど、まとめの原案の1番初めから観光の話があるのですが、先ほど白澤さんがおっしゃったこともなるほどと思いましたし、確かに星空は今、日本一の星空だとか、観光地として間違っていないと思うのですが、今回の諮問は教育に関して学校と地域との関係性についてなので、とりわけ観光だけが村にとって大切であるような表現というのは、この教育の中では正解なのかというのがわからなくて、村も、もちろん観光地も、中馬街道だったり東山道だったり、歴史と湯煙の里という風に阿智も言われてきたわけですが、歴史や文化も阿智村だと思うので、教育に対して、あまり観光を誇張した形で持ってくるというのは、誤解を生んでしまうのではないかなということがあります。(5)の地域の特色を生かした村のスクールコミュニティの中で、先ほど白澤さんが説明してくださった3行目の、また医療、福祉、観光というところからプール、図書館、カフェ、多目的ホールというのがありますが、この説明の中でリニアの新時代構想のお話をされましたけれども、この検討委員会で新時代構想について深く話したこともないですし、確かに計画があることはわかりますけれども、私たちがこの話をしていない以上は、それを前提としてこの中間まとめを作るということはちょっと疑問があります。そういった形でこう方向性を持って進んでいるのであれば、そこに教育が乗かって、プールや図書館、カフェ、多目的ホールとかいろいろなものが一緒に地域のところまでできるといいなというのはあるのですが、私がちょっと無知で知らないものですから、それを果たしてこの諮問の中に入れていいのかどうなのかという思いがあるので、ちょっとそこはお伺いしたいです。

⑧白澤委員

おっしゃる通りだということもありますけど、持続、要はこの学校が継続、学校教育の問題も含めてこの地域が継続できるかということも、僕は経済だとかその経営者の立ち位置で今回委員になっているので、そこを外すことができなかつたのです。要は、持続可能な阿智村がどうなのかということが1つ重要なところで、村が持続可能であれば産業もそれから教育も同じように持続可能になるのではないかという風に、単に考えればそういうイメージを持っていたので、先ほどC委員のご質問もあったそのコストというので、この部分も観光だけの視点で捉えるのではなく、阿智村が今後発展していく、持続可能になる上で、村づくりとか教育や文化というものを切り離して考えることはなかなか難しいだろうと。今回僕らが作ったそのリニアの新時代の構想も、地域住民の皆さんとどうコミュニケーションをとっていくのかということが1つ重要なキーワードになると思ったものですから、あえて今回諮問の答えの部分に入れさせていただいたのですが、おっしゃる通りに教育というところだけ捉えて、この質問内容となかなか合わないねということになれば、この後の皆さん、小グループでの意見の中でそれぞれ意見をいただいて提案を直していくことはできます。

⑨委員長

ありがとうございました。原案作成者なので、ご発言はこの通りだと思います。

⑩代田副委員長

この諮問1の答申の作成にあたっては、私もアドバイスをさせていただいた立場なので、今の点については一言添えさせていただきますが、次のグループディスカッションで議論をしていただければと思います。C委員のご指摘というのはその通りだと思います。ただ、その中で、今回むしろ僕が大事にした方がいいなと思ったのは、これを機に村の次世代のプランを見ましたが、とても素晴らしいことをみんなで構想しているという風に思います。大きな前提として、学校教育が単体ではこれからの村の中で存続できない以上、いろいろなことを勉強しながら関連性を持つというのがまさにスクールコミュニティの発想なので、その中で間違いなくこの50年、この観光地であるものがアイデンティティになったわけですし、そのアイデンティティをどういう風に変えていくかというところと言うと、教育だけを考えずに、いろいろな産業との関係性をみんなで考えていく。そして、まさにこれを機に構想をみんなで考えていくというのも1つの手じゃないかなと、そんな風に思います。

⑪委員長

ありがとうございました。それでは、小グループに分かれていただき、20分ぐらいで協議をお願いしたいと思います。なお、グループで出された意見を発表していただく方も決めていただき、意見交換を始めてください。

(3) グループでの協議

(4) グループ協議の共有と意見交換

①委員長

ありがとうございました。それでは、各グループで意見交換されたことを共有していきたいと思います。

②D委員

全然まとまらないのですが、中間まとめの提案の書き出しの部分に対して、やっぱり観光が成り立っていて、その文化だったり歴史だったりするところも盛り込んでいくべきだろうなという意見がでました。そうすることにより、この地域と学校が地域とも関係で成り立っているため一度村から外に学びに出たとしても、戻って来て貢献してくれるといいなという思いもあります。やっぱり親が可能な説明をしていくことはもちろん大事ですし、学校と村の経済が回っていくことはもちろん大事なので、小学校、中学校から地域のことをどんどん学んでいってほしいと思います。浪合のトウモロコシだったり、清内路の花火だったり、村全体を地元として捉えて考えていけるといいなと思いま

す。

③E委員

短時間でしたのでまとまりのない話になってしまいますけど、3つあります。

リニアの話が先ほど出ましたけれども、リニアを抜きにして今後の阿智村については語れないのではないかと。また、産業を抜きにして教育を語れないのではないかとという話が出ました。また、教育機関や大学みたいなものが欲しいのだけれども、今はネットが発達しているので、そういう通信を利用して自主的に資格を取ったりすることができる時代として物事を考えなければダメで、諮問の内容がこの役割をもっているかなど。それから、地域のあり方についての方針として、今回答申の原案が作られたわけなのですが、答申に対しての方針ということで妥当ではないかと思えます。

それから3つ目、ここに何が求められているかということで、地域のアイデンティティということでもいろいろ話が途中だったのですが、大好きな気持ちを大切に地域の子どもたちを育てるということで、地域というものを1番に考えた方がいいと思えます。

④F委員

よろしくお願いします。4点意見が出されました。

まず1点目です。昼神温泉ですが、あの全く何もないところに温泉が出たことで価値ができたということではないので、元々の価値をしっかりと大切に書く書き方だと思えます。例えば「阿智村の古くからの歴史的・文化的な魅力、あるいは価値に加え」と、50年前のそれにちょっと入れてみたらどうでしょうか。

2つ目ですが、今回に限ったことではなく、人口を元々増やすというのは必要なんじゃないかというような意見もいろいろ出てくるのではないかとということから、2ページ目の(2)出生数減少の現状の下の2行のところですが、案としまして、「予測されている以上に少ない数値である」の後に、「人口増加への手立てが生かされているとしても」というような文を入れたらどうだろうと思いました。

3つ目ですけれども、ここでいろいろ話をして、地域としての学校のあり方も考えるのですが、地域の意識を変えるということもとても大事だと考えた時に、スクールコミュニティについての内容が入っているという意見で、これは中間のまとめじゃないかもしれないのですが、やっぱりその地域住民にそこをどう意識づけていくかというようなことも考えられるといいなという意見が出されました。

最後に、この最初の資料を見ると、その住民の方には直にというか、ダイレクトに統合という風にイメージをして、「ほら」というみたいな意見もきっと出てくるのではないかなという心配があるのです。やっぱりそのことを(1)から資料として入れていなければいけない大事な部分じゃないかということで、賛成の意見がございました。

⑤G委員

私どもの班で出た意見をまとめますと4つあります。

1つ目は、この諮問を本当にわかりやすくまとめていかないといけないという意見です。数値を見ると本当に危機感が漂う、このままではいけないのではないかとというような意識をみんな持てるということで、とてもいいと感じます。そういった中で、このままではいけないことはイメージができるのですが、具体的にそういったワードを出しておいてもいいのではないかとということになります。諮問2の方で、学校の教育理念や、制度、オペレーティングのところを議論に入れていくところだと思うのですが、諮問1の中で少し方向性を示していけるのであれば、その諮問に内容がより具体化するのではないかとこの意見がありました。

2つ目は、今回の諮問の内容の2行目、「学校にはどのような役割が求められているのか」「今後の学校や地域のあり方やその可能性について」の具体的な案を提出してください、というのが当初いただいた中にありました。より具体的なところのページを見てみると、今回のこの中で、(5)の中にいろいろな地域資源の活用もまとめてくださっているのですが、子どもたちと地域住民による観光ガイド云々という、こういったところが非常により具体的になると思うので、この質問に答えるのであれば、より具体化してボリュームを増やしていくということも必要ではないかという意見がありました。

3つ目、地域との連携というような言葉がいくつかございます。こういった教育に地域が関わっていくということの中で、やはり地域の人たちが今以上にどういうふうに教育に関わっていくのはハードルが高いのではないかとこの意見です。地域の人たちがどこまでこの教育に関わるのかということになると、我々のような世代で言うと、自分の子どものPTAという活動の中でもいろいろ必要最低限関わっていますが、それ以上に地域が教育にどう関わっていくか、これが捉え方によると主体的、内発的に続けてできていけばいいのですが、そうじゃないとすると負担感という捉え方もあるのです。それをオペレーティングするために、じゃあ学校の先生が土曜日曜やもしくは夕方に出ていく、誰か責任者がいなければいけないのですよね。そこの責任の所在をどうするのかというところなんです。そこに参加いただいた方に手当を出すのか、教育委員会からその活動費を出すのか、そういったオペレーションのところも、より具体的なことも見えていないと空想で終わってしまうのかなど。それから、全体の中でお話がありましたけれども、リニア構想との連携もとても大事なところだとは思いますが、こういったものを含んでいくということであるならば、やはりこの場での共有をしていただかないと、我々メンバーになっている委員として、地域の人たちから聞かれた時に明確に答えられない、というような意見が出されました。

⑥委員長

ありがとうございました。

今いただいた意見の中では、おおむねこの諮問1に関する案というのは非常によくまとまっているという印象を皆さん受けているという私の認識ですけれども、その辺りは間違いないですか。

では、これをベースに話し合いを進めていきたいと思えますけれどもいかがでしょうか。

⑦C委員

先程の(5)にあるリニアの新時代構想については、今の時点でこれを載せたいから、この検討委員会の皆さんと情報を共有し、理解を深めるのか、入れないのか、のお答えをいただきたいと思うのですが。

⑧委員長

これについては、諮問の趣旨もあると思うので、教育委員会の見解も少しお聞きしたいと思います。

⑨黒柳教育長

中間まとめということですので、どこまで3月の段階でまとめを出していただけるかということがあると思います。リニアとの関係についてはなんとも答えようがないというか、皆さんにまとめていただければと思います。こうしてほしいとは言いにくいのです。

⑩白澤委員

1点ですけど、先ほどの話の中でリニア新構想という文言は出して話しているのですが、基本はリニア中央新幹線が通ったら、この飯田下伊那地域が劇的に変わることです。どのように変わるかは、行政の力もありますし、我々民間の力ももちろんあると思うのですが、とにかく今までと変わるわけですよ、今までと。ですので、リニアが来た時にどのような村を作っていくか、そこの産業や教育というのは全部連携するのですが、リニア新構想の中身を、リニアが来る時に時代が変わって変革が起きて、まちづくりも変化していくから教育も変化していくというような、そういう意味合いで作っているということをご理解いただくといいのかなと思います。リニア新構想にこれが全部入っているかという、そうではない。これからの議論の中で我々はその資料を出すことは全然やめたではないですけど、多分あまり大した議論ができないと思います。

⑪C委員

おっしゃることは理解できますが、私がちょっと危惧していることとすれば、この資料の中に、教育の諮問の中にこういうことを入れると、やっぱりリニアや新時代構想とは全く別で、検討されていると思うのですが、リニアの新時代構想の案は、子どもたち

の教育のためにやろうというような、この教育の諮問が言い訳になってしまうことがもしあるのであれば、それはとても悲しいなと思いました。ここの検討委員の皆さんが理解した上でそういう話になるのであれば全くいいのですが、そういった話を私たちが検討しているわけではないですし、またそれはそれで別の話なので、検討委員会の中でこの教育の諮問を一応後ろ盾としてもし進めてしまうことがあれば、いろいろなご意見があると思うのでちょっと心配です。教育をそこに入れてしまうということが、こういう風に文章になったことになってしまうのであればちょっと心配だなと思ったので、少し質問してしまいまして申し訳ありません。

⑫H委員

学校がどうやって子どもたちの願いや夢を実現するか。その時に、今のリニアの話もそうだと思いますが、時代が大きく動いていく中で、不確定なことが多い時代の中で、子どもがどう育っていくか、そのための学校と地域の関係性をどう我々が用意をしていけるか、こういう視点で考えていました。時代の変化の中で、今いる子どもたち、これから子どもたちが、やっぱり阿智がいいな、阿智が好きだなと思え、自分の願いや夢が実現できる、そんな思いをもって大きくなってほしいと思います。さらに、自分がこうやって変えたい、こう頑張りたいという願いを持って、大人になってまた阿智に帰っていく、または阿智のためになろうとする。そんな子どもを育てるために、学校や地域の関係の中で、自分のふるさとを学び、自分のふるさとのためにどう貢献するか、最大限活かしながら地域や自分のふるさとに子どもたちが夢を持てるような学校と地域との関係性が大事じゃないかと思います。やっぱりその学校それぞれの思いで、俺たちこんなすごい地域で育っているのだ、だからこの地域を大事にしたいよねという大きなコミュニティを作り上げていくことが、子どもたちにとって1番大事なのではないかと思います。

⑬委員長

この方針を読ませていただいて、自分はこういう村をもっともっと好きになるというところで、(6)というの結構スケール感があり、すぐ理解するというのは私もなかなか難しかったので、今の先生の話でだいぶ落ちてきたかと思います。ここは地域がたくさんありますが、大きなコミュニティを全て自分のものとして、帰ってくるにしろ帰ってこないにしろ、人生を過ごしていくということでは、こういった環境を整えるというのは非常に大事だなと思いますし、それが、統合されていくというものじゃなくて、伏木先生が言われたような包摂とかインクルージョンとか、あるものとの融合みたいな、そういったところに繋がってくるのではないかなと思いました。

⑭代田副委員長

今日のディスカッション、本当に充実していたと感じました。何が充実していたかと

いうと、皆さん一人ひとりが当事者意識を持ってこの諮問を考えていただいている。そこが充実していると思いました。先ほど教育長にどういう考え方かという風に委員長の方からあった時に、わたしたちで考えてくださいという回答がありました。まさにその通りだと思っていて、我々が考えて教育長に答申するので、我々が本当に一人ひとりの代表者として考えることが大事で、そういった意味では充実した議論ができていたと思います。

議論になっていた、この村をどのような出だしで書くか非常に重要で、皆さんこだわり持っているところも、今後やっぱり入れていった方がいいという風に思いました。リニア構想との関係も、それぞれの当事者意識の表れだなという風に思いました。

ただ、私は一方で、阿智の現状、財政、そしてリニア構想の資料を見させていただいた時に、やはりここに来たメンバーは、阿智村の将来を考える時に、リニア抜きに、あるいは人口動態や財政状況を抜きにして投資ができないだろうと思います。教育委員会の方にぜひお願いしたいのは、私が見た資料でも結構ですので、阿智村の今の考え方や検討事項などを共有できると、より充実した方針になっていくのではないかと思います。

⑮伏木副委員長

途中音声聞きづらいところもあり、ちょっと出ていましたので、皆さんの議論もちゃんと聞けなくて申し訳ありませんでした。ただ、答申案中間まとめを読ませていただいて、ちょっとびっくりしました。

実はですね、昨日私、東京駅前のホールで、フィンランドのある CEO と私とで登壇して、これからの社会、これからの学校にどうやって社会体験活動を導入し、位置づけて持続可能なものにするかという議論をしました。そこにたくさんの企業が集まって、教育に関していろいろなことを各企業が意見を出して参画して、すごい会議になったのですが、その議論より充実していたというか、地元の白澤さんを中心に案を出されたことがとてもびっくりしました。

今日の議論の中で委員から出た問題として、ちょっと意識のずれがあることが明らかになったと思うのです。私自身も以前からスクールコミュニティ構想というのを天龍村やいろいろなところで一緒にやっているのですが、手続きとして、今日のこの内容、答申中間まとめの具体的な内容として、こういう発想は、なかなか一般の方々には経験がないものですからわかりにくいし、まとめる前に私や代田先生がプレゼンをしたように、こういう内容を委員の皆さんに事前に学習会としてやっていただくというプロセスがあった方がよかったかなと思いました。会議を増やすことが難しかったら、資料の補足とか、それこそ YouTube にアップして見てみるとか。そんな手続きがあるといいかとは思いました。

もう1つは、この資料拝見して思ったのは、諮問自体はそこまで書いてなかったけれども、これを読むと危機意識が共有できるのだなという感想を持ちました。多くの住民

の皆さんは50年後の危機を持ってないのですよね。失礼かもしれないけど、外側にいる私はめちゃくちゃ心配して、その危機意識を覗けるような資料になれば見事かなという風に思いました。だから、全ての委員会のメンバーが、ここに埋め込まれたビジョンみたいなものを外に出す前に、事前に共有できるような補足資料や勉強会みたいなものが何かあるとベターだろうという印象を持ちました。

⑩委員長

ありがとうございました。それでは、これを踏まえてまた議論を進めることになりませんが、ここで一旦、諮問3の方に行きたいと思います

(5) 諮問3 中間まとめに向けて

①松澤専門主事

諮問3ですが、前回の委員会の時に検討いただいて、まとめをするとき、次回の委員会では事務局でというお話でしたので、前回のご意見を反映させて書き直したところがございますので確認いただきたいと思います。

まず、前段のところでは、阿智村の小中学生の傾向からは不登校児童生徒の増加という課題もあるというところを入れてあります。それから、その次の、AIの技術が発達したというところ、意図はないのですが、間違っていますので、直していきたいと思います。①から⑥までの項目のタイトル、それから並べる順番を、この前ご意見いただいたような形で多少入れ替えをしてまいります。特に1番上のところについては、国際理解に求められる基礎的な知識というような形で表現してあります。今日のところは、そんなところでお願いします。また修正した方がよいところがありましたらご連絡いただきたいと思います。

②委員長

今の説明で、ご意見ありますか。

③伏木副委員長

委員長、ちょっと私から1つお願いします。

外野からなのですが、①と③があまり鮮明に出ない感じもします。国際化時代に求められるという、確かに意図的な知識は必要になったので全部求められるものだから当たり前前のことをプラスして、繰り返しになりますけど、多様性を受け入れるとか、異なる考え方というものとどう向き合うか、また協力的に新たな知を創造するかという、これが私の世代の教育には全く抜けていたわけで、こういうことがこれからの国際化時代、これからの子どもたちが生きていく時代に必要だという文言が足りないかなという印象があります。

④委員長

ありがとうございます。これは次回の課題ということでよろしく申し上げます。ありがとうございます。それでは、ちょっと前後しましたけれども、統括的なことは伏木先生いかがでしょうか。何か付け加えることがありましたら申し上げます。

5 協議のまとめ（伏木副委員長）

会場にいない私がまとめていいのかという気がしますが、今日の流れを振り返らせていただきます。

最初に信濃小中の報告がありまして、松澤先生から諮問1の確認、その他に根羽村や他の参観の話題も出たと思います。

次に、この中間まとめについて小グループで話し合いをされ、その内容については私にはわかりませんが、この特定の観光ビジネスとか特化したプロジェクトのことを答申に入れていいのかどうかという意見も出されましたが、この辺の調整は教育委員会にお任せしたいと思います。もうこの問題は教育委員会だけでできる問題ではないと思いますので、視野を教育にとどめない、社会福祉だとか観光やいろいろな産業を含めて考えてなくてはいけないのではないかと思います。このプロセスの中で委員だけが納得して答申を出してはいけないので、そこを工夫していただきたいなと思います。いろいろな生のデータ、深刻なデータを含めて提案をしていただいたと思いました。

諮問内容の3に関しての中間まとめに関しても、4つの意見が出たかと思うのですが、何かあればここに付け加えさせていただくということになるかと思います。傍から見ていて、参加者が随分活発な議論をされたようで、この委員会も充実してきたなと思いました。まとめになりませんがよろしく申し上げます。次はそちらに伺います。

①委員長

お待ちしております。よろしく申し上げます。それでは事務局の方にお返しします。次回は公開ということでよろしいですか。

②松澤専門主事

はい、次回は公開ということで申し上げます。

6 連絡（松澤専門主事）

長時間にわたる意見交換、ご協議ありがとうございました。
次回、第5回の委員会になりますが、当初の計画にはなかった日ですけれども入れていただいて、1月10日金曜日の午後4時から6時、この場所をお願いしたいと思います。最終が2月20日木曜日、中央公民館の大ホールで開催したいと思います。ご承知いただき、今から日程に入れていただければと思います。よろしく願いいたします。ありがとうございました。

7 閉会の言葉（川上次長）

以上をもちまして、第4回あり方検討委員会を終了とさせていただきます。
大変ありがとうございました。

8 次回会議

第5回委員会	1月10日（金）16:00～18:00	コミュニティ館2Fホール
第6回委員会（最終）	2月20日（木）16:00～18:00	公民館大ホール

（閉会 午後5時55分）

教育長・委員長 署名／捺印